

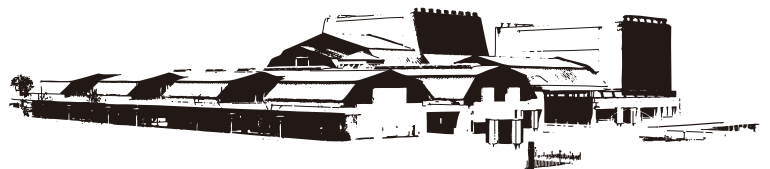
文化  
の家

  
長久手市文化の家  
NAGAKUTE Cultural Center  
Vol.37

# NAGAKUTE CULTURAL CENTER



特集：トリプル3  
演劇ワリカンネットワーク



# NAGAKUTE CULTURAL CENTER



表紙の写真 ながくてアートフェスティバル 2012 より

## Contents

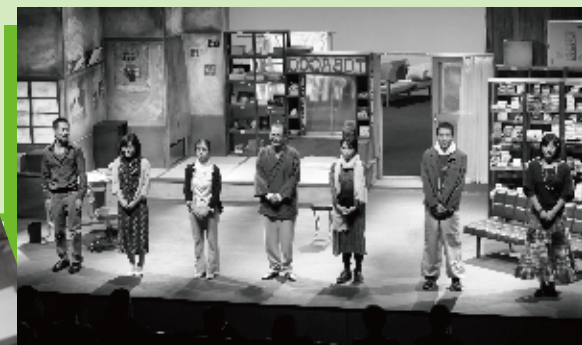
もくじ

・特集 トリプル3 演劇ワリカンネットワーク「摺刻ーラグタイムー」	2
・Topics 劇王 X~天下統一大会	6
ながくてアートフェスティバル 2012	7
平成 24 年度後半の自主事業から	9
・編集後記	10



トリプル3演劇ワリカンネットワーク  
劇団⊕太陽族×長久手市文化の家

# ラガタイム 摺刻



撮影：石川隆三

3つの劇場で、3つの劇団が、3つのお芝居を上演して巡るトリプル3演劇ワリカンネットワーク。これまで劇団ジャブジャブサーキット「やみぐも」、南河内万歳一座「あらし」と上演してきましたが、最終年となる3年目、大阪の劇団⊕太陽族の「摺刻ーラガタイムー」が上演されました。これまでの2回と同様に公募・オーディションで選ばれた7人が、太陽族の俳優とともに、岩崎正裕さんの演出のもと本番に臨みました。

# ラグタイム 摺刻 制作レポート

## 【オーディション】

2012年6月の初めから応募を開始した出演者のオーディションが7月1日に開催されました。

一次オーディションはワークショップ形式。

ストレッチから始まり、タオルで作ったボールを回したり、みんなで手を叩きあったり・・・

本当にこれはオーディションなのかと思ってしまうくらい、みなさんリラックスした状態で過ごしていました。

その中で、見世物小屋の呼び込みの口上にある、因果もの（親の因果が子に報い・・・）というテキストを自分に置き換えて自虐ネタを作り披露しました。拍子木の代わりにバナナの叩き売りのように、新聞紙をグルグルと巻いたものを力強く叩きながら、己の哀れな因果物語を語っていました。

そして、二次オーディションのために通過者の選考。



演出の岩崎さん、制作の岸部さんを中心に、太陽族の皆さんで考えていました。

約1時間の熟考の後、通過者の名前が張り出されました。

第二次オーディションでは、台本読みもしました。

最初は読み合わせ、次に実際に動いての台本読みでした。

本格的なオーディションのようで、見ているこちらドキドキ。

2時間のオーディションはあっという間に終わり、出演者の最終選考。

太陽族の皆さんは頭を抱えて選考されていました。



40分程の選考の末、いよいよ出演者も決まりました。これから本番までの期間、お世話になる出演者さん。ドキドキですね！

## 【顔合わせ】

7月16日に出演者顔合わせがありました。

今回の合格者は7名。

実は、オーディションでの皆さんが素晴らしかったので、当初の予定を変更し、一部ダブルキャストの4回公演を行うことになったのです。

合格者のみなさんは、自分以外は誰が出ることになったのかわからない・・・

と、ドキドキしながら文化の家にいっしょにいました。

## 【稽古（7月21日）】

いよいよ稽古始め。

ストレッチと発声練習を行ったあと、いよいよ台本か！？と思いきや、オーディションでもやっていたボール回しなどみなさんの緊張をほぐし、コミュニケーションがとれるようなさまざまな活動を行いました。

そのあと、いよいよ台本読み。

三重・富田林(大阪)と上演されてきた今までのラグタイムは、その土地の言葉である三重弁・関西弁で台本が書かれていました。

この二つの方言はわりと似たような言葉でした。

今回の「摺刻 - ラグタイム -」は、地元の言葉で上演したいという岩崎さんの思いを受け、オイスターズの平塚直隆さんが名古屋弁に翻訳した台本を使用しました。

3年連続出演の太陽族森本さん(京都府出身)は、どうしても関西弁のイントネーションが抜けず、大変苦戦されました。ちょっとした言葉でも関西弁と名古屋弁ではイントネーションが異なるのです。(たとえば、『違うんだわ』とか。)

しかし、この日森本さんとダブルキャストを務める碓井さんはお仕事のためおらず、名古屋弁のイントネーションをどうしても聞きたいというリクエストに応えるべく、急きょ文化の家スタッフが台本読みに参加。

しかし、演劇経験もなく台本を一通り読んだだけのスタッフの読みは、かなりたどたどしく名古屋弁のイントネーションをお伝えすることができませんでした。



### 【稽古（7月22日から9月）】

「椅子に座った台本読みはそんなにたくさんやらない、すぐ台本を持って立ち稽古に入って、慣れてくれば誰かが台本を外す（持たずに稽古するようになる）。そうしたら周りもみんなつられて台本を外すようになるでしょう。」

と話していた岩崎さん。

その言葉の通り、3回目の稽古（7月28日）では、実際に立って動きをつけての稽古が始まりました。その後1か月のお休みのあとの9月の稽古では、最年長出演者の稲垣さんが台本を外していました。

9月後半の稽古からは、稽古場に簡単なセットを組んでの稽古が始まりました。

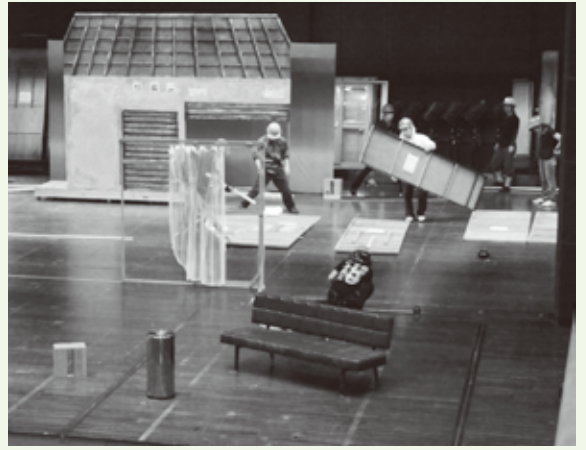
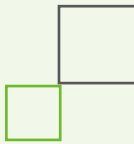


今までは椅子のみを使用した稽古も、平台を置き、簡易的に作られた扉を置くだけで雰囲気ガラッと変わりました。

### 【稽古後半】

いつもの稽古場を飛び出して、広い稽古場や実際の舞台である風のホールで稽古をしました。

少し狭い稽古場ではなく、実際の広さや衣装で演技することによっていよいよ公演が迫ってきたと実感しました。



### 【小屋入り 10/16】

ラグタイム公演日まで、あと3日。  
本日は、仕込みを行いました。

仕込みは独特の雰囲気ですね。  
舞台セット、音響、照明……

一瞬の本番のために、沢山の方の時間と体力を要します。だからこそ、なのか。本番というのは魅力的ですね。時間をかけて、じわじわとつくられていく、ラグタイムの世界。

本企画トリプル3演劇フリカネットワーク最後の演目「摺刻—ラグタイム—」

——1組の夫婦と、かつての仲間たち。どうしようもない現実と、かつての夢。——

——うらぶれた煙草屋に集う大人たちのリアルな生き様は……



# ラグタイム 摺刻

# 『トリプル3を終わって』

3会場のオーディション選出キャストの中で、3年連続出演した碓井秀爾さんに感想を寄せていただきました。

はじめまして、碓井 秀爾(うすい ひでじ)と申します。

名古屋市内で介護職をしつつ、長久手市劇団座★NAGAKUTEで役者として活動中です。現在46歳で、演劇歴は8年程度。ということは、38歳から始めたワケです。また、何を思いその年から役者を志したのか?度々人に訊かれ、「自分探しの果てに、板の上に行き着いたんです」と気取って答えています。実のところは自分でもよく判りません。

名古屋某所で初舞台を踏んでから、縁あって座★NAGAKUTEに入団。演出・佃典彦さんの厳しい指導を受け、公演に出ながら、合い間を縫って、他団体の公演にも役者として出演する日々を送っていました。38で初めて知った演ずる喜び、その面白さ!年に1回だけの座★NAGAKUTEの公演だけでは正直物足らないと、常に出演できる機会を窺っていました。

そんな時にトリプル3の企画を知ったのです。勝手知ったる文化の家で、稽古と公演ができて、他の演出や役者さんと組める。まるで自分の為の企画されたようなものと興奮し、微塵の迷いもなくオーディションに応募。実は人生初のオーディション体験、それがトリプル3長久手公演第1弾、はせひろいちさんと劇団ジャブジャブサーキットの『やみぐも』です。

何度か舞台を拝見し(傑作『歪みたる隊列』は衝撃的でした)憧れていた俳優との共演、しかも人生初のアテ書き。合格通知をいただいた時の、いや嬉しかったことと言ったら!それからは夢みたいな時間です。

『やみぐも』では戯曲が作られていく過程を目の当たりにしました。自分の演ずる人物は果たして何者なのか?稽古場で探っていく過程が、ミステリーである本作の展開とリンクしているようで興味深かったです。

「会話とは影響力のキャッチボール。相手の台詞の中に自分の意識や身体をかえるチャンスがある」印象に残っている、はせさんの稽古中の発言です。

集と散、舞台上でのダイナミックな表現で知られる南河内万歳一座。けれどもその躍動感を支えていたのは、作・演出の内藤裕敬さんのしっかりしたロジックと知ったのは、翌年のトリプル3第二弾『あらし』の現場です。



H22年「やみぐも」

日く、

「相手の台詞を聴くことは体験であり、それで君の内側に事件が起こり、現象として自分の台詞が出る。この体験から現象の繰り返しで舞台上で実在としていられる。」

本読みから立ち稽古、小屋入りと進む中で、内藤さんが役者たちに、絶えず戻るべき原



H23年「あらし」

点として何度も繰り返し聞かされた教えです。途中で色々な事がありましたが、南河内の二人の男優が牽引してくれました。彼等には学ぶべき点が多かったです。

「キャラや技術・面白いことを捨てないと、役者として自分が入っている“檻”から出られないぞ」

稽古の始めで、内藤さんから直接言われた言葉です。今の自分は“檻”から出られているのでしょうか?

『摺刻—ラグタイム—』のオーディションはキツかった!ハードな内容で、終わった後ヘトヘトになりましたが、なんとか合格することができました。初のダブルキャスト。同役の太陽族の俳優さんが目の前で演じているのを見て、いかに違う風にやるか、が一つのテーマでした。幸いに岩崎正裕さんは稽古大好きの実践派で、役者が出したものを絶対に否定しない演出家だったので、結果、自分なりの感性で目一杯遊べた稽古期間となりました。岩崎さんは自分と年齢も近い同世代というのもあって(あるいは私が一方的に思い込んでいただけかもしれませんが)、何かお互い通ずるところあって、それが芝居の各シーンに反映されていたみたいに感じました。難しい役だけど演じ切れた、という気はします。

トリプル3で得たものは、沢山あって全部はとても書き切れません。選別の場に身をさらし、健全な競争を他の俳優とする重要性。自分よりも経験も技術もある俳優と一緒に稽古して学べる多くの事柄(芝居に取り組む姿勢、稽古場の空気作り等々)。



H24年「摺刻—ラグタイム—」  
撮影：石川隆三

改めて感じたのは、役者は劇団というホームを持つべきだと。私にとっては、文化の家であり、座★NAGAKUTEがそれです。『やみぐも』、『あらし』、『摺刻—ラグタイム—』が終わっても、戻るべきホームがあるから頑張れました。文化の家スタッフ、佃さん、座★NAGAKUTEの仲間们に感謝します。

## 公演データ

平成24年10月20日(土) 午後1時・午後5時  
21日(日) 午後1時・午後5時

作・演出：岩崎正裕  
名古屋弁翻訳・監修 平塚直隆  
出演：森本研典(劇団 太陽族)  
佐々木淳子(劇団 太陽族)  
碓井秀爾(座★NAGAKUTE)  
井上八千代(全映)  
テラ・マルミ  
山口未知(劇団 B 級遊撃隊)  
稲垣千秋  
加藤厚志(パックピクチャーズ)  
珠里

# 劇王X



舞台上に勢揃いした、各地の予選を勝ち抜いた出場者と歴代の劇王・劇帝

## 決勝に進出した 4 作品



作：柴幸男「つくりばなし」



作：平塚直隆「イオン」



作：鹿目由紀「上中下」



作：福田修志「ノイジー」



見事、劇天となった柴幸男と副賞の劇天掛け軸

2月9日から11日の3日間にわたり、短編演劇のコンペティションである「日本劇作家協会東海支部プロデュース劇王X～天下統一大会」が風のホールで開催されました。

これまでは東海地区の劇作家を中心に行われてきましたが、今回は10回目を迎えるにあたって全国で地区予選を行い、その勝者とこれまでの劇王各大会を勝ち抜いた歴代の劇王・劇帝による“天下統一大会”として開催されました。

地区予選を勝ち抜いてきた猛者ばかりとあって、予選ブロックから見応えのある作品がずらりと並び、どれが決勝にあがってもおかしくないものばかり。その激戦を勝ち抜いたのが上の4作品。

3日目の決勝も伯仲した戦いとなりましたが、見事劇天に輝いたのは第4代劇王の柴幸男さん。創作に苦しむ漫画家夫婦を描いた「つくりばなし」が1位に輝きました。

劇天になった柴さんには、劇天ガウンとともに別役実さんの言葉が書かれた掛け軸が贈られました。

# NAGAKUTE ART FESTIVAL

ながくてアートフェスティバル 2012

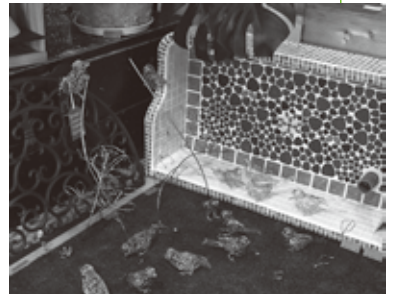


10/20 土 >>> 11/4 日



秋の恒例行事としてだんだん定着してきた「ながくてアートフェスティバル」が今年度も開催されました。今回も会場は文化の家、中央図書館、ギャラリー、美術館、カフェに加えアパートや福祉施設、お寺、休耕田などバラエティーに富んだ場所で、地元長久手のプロの芸術家から愛知県立芸術大学の教員・学生、さらに一般の方も参加したワークショップなど、観客・出品者が入り交じり、展示だけにとどまらず、コンサートや体験講座、即売会さらには農作業?まで盛りだくさんのお祭りとなりました。





休耕田に巨大なくまが出現



くまの内部休憩できます。



## 第14回 長久手市文化の家フェスティバル

〔日時〕 展示部門：11月7日（水）～11日（日）展示室  
舞台部門：11月10日（土）風のホール11日（日）森のホール  
パフォーマンス部門：11月10日（土）・11日（日）

今回で14回目を数える長久手市文化の家フェスティバルが開催されました。展示・舞台・パフォーマンス(クラフト体験、展示)の3部門で、それぞれ熱のこもった作品、演奏、演技が披露されました。



## スティーヴン・イッサーリス チェロ・リサイタル

〔日時〕 11月24日（土）  
キッズプログラム 子どものためのコンサート～イッサーリスさんからのおくりもの

〔日時〕 11月25日（土）  
チェロ・リサイタル”Beethoven Day”with ロバート・レヴィン(フォルテピアノ)

世界屈指のチェリストであるスティーヴン・イッサーリスの、全曲ベートーベン作品によるコンサートが森のホールで行われました。伴奏には、フォルテピアノという現在のピアノの原型となった古楽器が使われました。

オーケストラでは低音部を担当し、あまり表面には出てこないチェロですが、今回のコンサートでは、ソロ楽器としての魅力が大いに発揮され、森のホールが豊かな響きに満たされました。

コンサートに先立つ24日には、子ども向けプログラムの「子どものためのコンサート～イッサーリスさんからのおくりもの」が開催されました。イッサーリス著『もしも大作曲家と友達になれたら』をもとに、朗読を交えてベートーベンの生い立ち・人柄などを紹介。演奏とともに子どもたちを優しくクラシック音楽の世界へ誘いました。



## 第10回 長久手市文化の家バンドフェスティバル

【日 時】 12月16日（日）

【会 場】 森のホール

文化の家フェスティバルから独立してバンドフェスティバルとなってから10回目を迎えた今回も、小学生から社会人まで幅広い年齢の参加者が一堂に会し、迫力の演奏が繰り広げられました。

全てのバンドの演奏が終わったら、恒例となった出演者全員によるセッションが行われ、バンドや世代を超えた交流が行われました。



### 文化の家情報誌37号 **編集後記**

自主事業の開催時には毎回、観客の皆さんにアンケート用紙を配っていくつかの質問にお答えいただいています。その中に、「お住まいはどちらですか?」という問があり、「長久手市内、近隣市町(瀬戸・尾張旭・日進・東郷)、名古屋市、その他の県内、県外」と地域別が書き添えてあります。事業のジャンルや観客対象、知名度等々によって都度の変化や例外はありますが、長久手市内と近隣市町、名古屋市の3者がそれぞれ30%前後でほぼ横並び、残りの10%前後がその他の県内外の住人というケースが少なからずあります。

地元の人にはアンケートに関心が薄く回答率が低いという説もありますが、データの現実からすると、残念ながら地元住民の割合が多くない。誰のための施設かなど、問題はいっぱいですが、名古屋市をはじめとする他の市町の公共施設を利用する長久手市民も多数いることも確かです。もちろん、館としての目線は常に地元住民に向けてあり、その現実化に日々工夫を重ねています。小、中学校への出前演奏やガレリアコンサート、また地元から役者を募った『トリプル3演劇ワリカンネットワーク』などもその例ですが、演者や観客としてばかりでなく、事業の企画・運営にも直接市民の皆さんに参加していただくことをいま計画しています。一部発信もされていますが、ご協力のほどをどうぞよろしくお願いいたします。

長久手市文化の家 館長 川上 實



# お知らせ

## ① ブログはじめました。

文化の家のスタッフが、  
心にかぶよしなしごとを  
そこはかとなく書き綴ります。

<http://bunkanoie.blog.fc2.com/>

あわせて、こちらどうぞ

ツイッター Twitter <https://twitter.com/bunkanoie>

フェイスブック Facebook <http://www.facebook.com/bunkanoie>

## ② 文化の家における「あいち共同利用型施設予約システム」利用について

平成25年4月2日(火)午前9時から長久手市文化の家でも「あいち共同利用型施設予約システム」が稼働します。

このシステムはあいち電子自治体推進協議会が運営し、愛知県内の市町が共同で利用するもので、長久手市文化の家の施設の空き状況の照会が、パソコンや携帯電話からいつでも行えるようになりました。操作は簡単ですのでどうぞご利用ください。

パソコンからは [https://www.e-shisetsu.e-aichi.jp/web\\_info.html](https://www.e-shisetsu.e-aichi.jp/web_info.html)

携帯電話からは <https://www.e-shisetsu.e-aichi.jp/keitai/>

- ◆ 文化の家では、空き状況照会のみでの運用となります。当システムでのご予約はできませんのでご注意ください。
- ◆ ご予約される際は、お電話、または窓口で空き状況を再度ご確認の上申請して下さい。

詳しくは長久手市文化の家までお問合せください。(電話番号 0561-61-3411)

長久手市文化の家のホームページはこちら

<http://www.city.nagakute.lg.jp/bunka/bunka/bunka/index-j.html>

公演情報・チケット情報、文化の家の利用案内などは  
こちらをごらんください。

## 長久手市文化の家

〒480-1166

愛知県 長久手市野田農 201 番地

お問合せ tel.0561-61-3411

チケット専用 = tel.0561-61-2888

<http://www.city.nagakute.lg.jp/bunka/bunka/bunka/index-j.html>

休館日 = 月曜日(祝祭日の場合は翌日)および年末年始

開館時間 = 午前9時~午後10時

### 交通アクセス

- 地下鉄東山線藤が丘駅下車、「リニモ」はなみずき通駅下車、徒歩7分
- 地下鉄東山線藤が丘駅から車で5分
- 地下鉄東山線藤が丘駅下車、名鉄バス5番乗り場、長久手郵便局下車、徒歩8分
- 名鉄バスセンターから名鉄バス、長久手車庫行き、西島下車徒歩5分
- 東名高速道路名古屋インターから車で10分、名古屋瀬戸道路長久手インターから車で10分

※ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

